



# 市議会9月定例会

## 行政報告

市議会9月定例会が招集された9月1日、**富山市長**が行政報告をしました。その中から主なものをお伝えします。なお、9月定例会で審議された議案などについては、次号でお知らせします。

### 稲の生育状況と

#### 61年産生産者米価

田植え以降、平均気温が平年を下まわり、異常低温注意報が発令されるなど稲の生育に大きな影響を受けており、出穂後のわせ種の一部に低温による障害も見受けられます。これからの天候の回復を期待しながら、今後も農業総合指導センターを中心に指導の徹底を図っていききたいと思います。

六十一年産生産者米価については、五十二年以来実質的に引き下げが続く、二年続きの豊作を理由に引き下げ諮問が取りざたされたことから、農協を中心に「現行以上の米価」要求の運動が展開されました。結果的にはすえ置きとなりましたが、水田利用再編対策、市場開放問題などに今後の「はね返り」が大きいものと考えられますので、これまで以上の強力な運動の展開が必要だと考えています。

### 鉱山不況対策

三月三日、大館市鉱山緊急対策本部を設置し、県鉱業政策研究会などとともに鉱山不況緊急対策について、国会や各省庁等に陳情を重ねてきました。

また、七月二十五日には、金属鉱業危機突破中央集会在東京で開催され、抜本的鉱業政策の確立などを決議し、国に強く実施要請をしています。

その後の対策ですが、鉱山緊急対策本部を「大館市鉱山対策本部」に改組し、鉱山不況による地域経済に及ぼす諸問題について具体的

な施策を関係機関と協力して実施していきます。

八月二十九日、国の鉱業審議会から出された報告書には、鉱業基本法や価格差補給金には全くふれておらず残念です。しかし、要所所には、陳情してきた内容が反映されており、今後もこれをもとに諸施策の実現に向けて一層の努力をしていきます。

### 日中友好映画のつどいと

#### 文化作品展

六月二十九日から七月十日まで中国大使館の協力のもとに「日中友好映画のつどいと文化作品展」を開催したところ、市民多数の参加を得て、成功裡に終了することができました。今後とも、日中友好そして恒久平和の確立のため一層努力を重ねていきます。

### 建設工事関係

○川口小体育館改築工事について  
五月二十四日に着工以来、好天に恵まれ、工事は順調に進み、五五%ほどになっていきます。十月十五日には予定どおり完成見込みです。  
○釈迦内小改築工事について  
六月二十一日に着工し、来年一月三十一日完成を目指して工事を進めています。現在校舎並びに給食棟の基礎工事を終わり、柱部分の鉄筋組立工事に入っています。  
○城西小体育館改築工事について  
この工事も六月二十一日に着工し、約三〇%の進み具合になっています。十月三十一日の完成を目指して工事を進めています。

## 市政功労者表彰式

市の発展に長い間にわたって貢献された方々を讃えて、次により表彰式を行います。市民の皆さんの多数のご出席をお願いします。  
とき・9月21日午後2時30分  
ところ・市民文化会館大ホール



- ・楽しく学ぶ集い …… 14時50分
- ・図画、書道、版画、発明くふう展 (中央公民館) …… 9時17時
- …… 9月19日、21日

## 9月21日は 教育の日

- ・記念パレード (片町、大町、文化会館) …… 9時30分
- ・教育を考える集会 (文化会館) …… 10時30分
- ・記念論文入選者表彰式 (文化会館) …… 12時50分
- ・記念講演 (文化会館) …… 13時
- 「日本語の心」  
国語学者 金田一春彦氏

## 市長の対話ノート



No.139

### 再び「郷土品愛用」運動を

皆さんに一人一日三百円の郷土品を使ってもらえば二千万円となります。その郷土品は様々あります。農産物や林産物、鉱産物とその加工品まで。毎年十一月開かれている「産業祭」で確かめて見てください。

「活性化の乏しい街に活力を」。よくいわれる言葉ですが、活力は与えられるものではなく、自らがつくり出すものです。

「一村一品運動」も結構ですが、販売ルートはどうでしょうか。宣伝力をもてない現状では容易ではありません。貿易摩擦で目は内需拡大に向けられています。少し見方を変えれば自給自足の拡大にも通ずるものがあるといわれています。

現在は、単に消費者というだけでなく、生活発見者といわれる時代です。つまり大量生産、大量販売、大量消費の時代から、多品目少量生産、個性を追求するニーズに合わせなければならぬ時代なのです。

現象を断片的に眺めて見ましたが、そこから引き出したいものは「わが街で生産したものを、わが街で使おう。そこから活力をつくり出そう。使ってみて自信がもてる良い品に作り変えよう」その自信で全国に宣伝しましょう。郷土品愛用運動。それは市民総参加が原点であり、活力の源です。つくって、使って、育てよう郷土を。

富山健治郎